

令和2年度第1回公立大学法人長野県立大学評価委員会

日 時：令和2年7月20日（月）

10時45分～12時35分

場 所：県庁議会棟3階 第二特別会議室

1 開 会

○新井企画幹

ただいまより、「令和2年度第1回公立大学法人長野県立大学評価委員会」を開会いたします。

私は、本日の進行を務めます事務局の高等教育振興課の新井と申します。よろしく願いいたします。

最初に、県民文化部の増田部長より御挨拶申し上げます。

2 挨 拶

○増田県民文化部長

おはようございます。本日は初回の長野県立大学評価委員会となります。

大変お忙しい中、委員の皆様におかれましては御参加をいただき、あるいはウェブで御参加ということで御都合をおつけいただきまして、厚く御礼申し上げます。皆様には、大学に関することはもちろん、いろいろなところで大変お世話になっておりますことを、この場をお借りして御礼申し上げるところです。

さて、昨年度、初めての評価をいただいたところですが、大変熱心に御検討いただきまして、貴重な御意見を賜りました。改めて深く御礼を申し上げます。

本年度、引き続き評価をお願いしたところでもございまして、既に事前ヒアリングなど御対応をいただいているということでございます。大変お世話になっており、御礼を申し上げます。

今年度も御指導を頂戴しながら、事務局といたしましても皆様にきちんと評価をしていただいて、大学の運営に役立つように、また方法を改善してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、県立大学ですが、今年に入ってコロナウイルスへの対応という難しい状況にございますが、皆様のお力を頂戴しながら着実に歩みを進めており、教育に、或いは社会貢献に成果を出しつつあると認識しているところでございます。開学から3年目を迎えて、いわゆる完成年度に向かって、皆様方に頂戴する評価や御指導は、県立大学にとって大変大きな推進の力になるということを、昨年度一連の評価をいただく中で強く感じたところでございます。

これから9月にかけて大変御多忙のところ、タイトなスケジュールで評価をお願いすることになっております。大変恐縮でございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。挨

拶とさせていただきます。

それでは、本日もどうぞよろしく願いいたします。

○新井企画幹

ありがとうございました。

本日の出席者を御報告いたします。

本日は、ウェブ参加の伊藤委員、沼尾委員を含め、委員全員の皆様に御出席いただいております。

それでは、以降の議事進行を山沢委員長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

3 協議事項

公立大学法人長野県立大学の令和元年度（2019年度）実務実績について

○山沢委員長

それでは、本日の議事に入ります。

本日は、令和2年度の最初の評価委員会となります。先頃、法人から提出のあった令和元年度（2019年度）の業務実績報告書に基づき、各委員には、本当に時間の少ないところを事前に小項目の評価を行っていただきました。ありがとうございます。

本日は、委員の皆様の評価を基に、小項目評価の方向性を議論したいと思っております。もう一回ございますので今日決定ということではございません。方向性を示していきたいということでございます。

評価を行うに当たっては、実施要領をきちんと決めなければいけないということで資料3をお出ししているわけです。

一応、今日は資料3を見ていただきます。そして、次回の委員会で、資料6についていろいろ細かく変えたりきちんとしたりするところがございますので、それに合わせた形で実施要領を作ってまいります。ただ、せっかく出ておりますので、整理をするということではちょっとお目通しをお願いいたします。

それでは、簡単に説明していただけますか。

○内山課長補佐

高等教育振興課の内山と申します。

資料3につきまして、簡単に見直し案を説明させていただきます。昨年6月18日に制定させていただいた実施要領ですが、下線部の見直しを案として示させていただいております。

2の（1）、アの小項目別評価でございます。一つ目のポツですが、「評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等について、法人関係者からヒアリング等により検証を行う」ということでございます。

それから四つ目のポツ、これは新規の項目で、「法人の教育研究の質の向上や業務運営

の改善に活かすため、評価委員会が必要と認める場合には、『評価結果報告書』とは別に『参考意見書』をとりまとめ、法人及び知事に提出、知事というか県という意味ですが、県に提出し、公表することができるということでございます。

以下、変更点のみ説明させていただきます。5番の評価スケジュールでございます。表の中段、7月下旬から8月上旬ということで、法人へ評価委員会で作りました評価書の原案を提出し、それに対する意見の申し出をいただく期間としております。

その後、9月中旬に評価委員会から法人及び知事に評価結果を報告するという。それから後に10月と記載がございますが、評価委員会のほうで参考意見書の公表、法人及び知事に提出ということになっております。

あと、別表としまして表1、大項目別評価の中で、一番上の教育に関する事項というのがございます。昨年度はこの大項目一本でしたが、小項目の数が多く、四つに分割してはいかかかということでございます。(1)人材育成の方向、(2)入学者の受入れ、(3)教育の質の向上、(4)学生への支援ということで四分割し、全部合わせて今年度は11項目ということでお願いできればと思っております。

最後に4ページ目、別表2でございます。大項目別評価の中の基準の記載は変えておりませんが、下のほうに注釈を入れさせていただきました。評価の目安ということで、「評価に当たり判断の目安を示したものであり、実績・成果の水準に加え、計画の難易度、外的要因、取組の経緯・過程等、総合的に勘案して評価する」と入れさせていただきました。

以上でございます。

○山沢委員長

ありがとうございます。

これはお認めいただくのではなくて、次回の前に資料として委員にはお渡ししたいと思っております。2回目の見直し案を作りますので、その節にきちんと議論をお願いしたいということでございます。よろしゅうございますか。

○生駒委員

参考意見書についての項目が、項目別評価のところに書かれています。この据わりとどうか、どこに書くかということですが、これは全体評価の後に3として書いたらどうですか。どうも小項目についての参考意見みたいに読めるので、据わりを考えたほうがいいのかという提案です。

○山沢委員長

分かりました。

2ページ一番上の(2)全体評価の後に(3)で入れたらどうかという御提案ですね。

○生駒委員

はい。

○山沢委員長

きちんと考えられていると思います。ありがとうございます。

○山浦委員

流れを見たら、参考意見というのは、小項目のところに余分なことがいっぱい書いてあるから、それをみんな省いてそれだけ小項目で書こうという意図があって、だからこんなところに書いてあるのですね。そもそもこの原案を作った人の意図は、だから全体意見のことではないのですよね。違いますか。どうも全体像の流れを見ているとそういう感じです。

だから、生駒委員の言っていることは全く議論が違う話だと思います。小項目の評価のところに昨年はいっぱい書いてあって、ここにそうではないのではないかというのがいっぱい出てきたから、これはどうも、それを全部書かないでくれと言っている。それだけまとめて提案するなら参考意見書で言ってくださいと。だから小項目なんて出てきてしまっているのですね。どうもそういう流れだなと、全体像を見て思いました。

○生駒委員

深読みですね。

○山浦委員

だから、逆のことを言えば、経営とか教育方針とかそういったことについて言うのは、全体像です。どちらかというとなら全体像のところに入れたいと思ってしまうと、ちょっと意見の食い違いがそこに出て、前提が違っていると私は思いました。

○山沢委員長

おっしゃりたいことはよく分かります。

例えば、3ページの大項目別評価の8で「業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置」ということで、幾つかの小項目から成っているけれども、それだけ見ても経営は無理ではないかと。もっと大学の運営・経営というものを考えた場合は、もうちょっと統括的に高い見地から見なければいけない、そういう業務というのがあるということをおっしゃられて、そういうものが欠けているのではないかとということをおっしゃっているのだと思います。

大体、小項目に分けて、a、b、cの評価の点数を集計して大項目別評価がいいか悪いか出して積み上げていますから、どうしてもそうなるのですけれども、本当はそうではなく、経営とかそういうことではいかないところがありますねと。そういうふうに小項目をちゃんと見てやるのは経営としては当たり前だけれども、それだけではなくて、もっと大きな観点でこうあるべきだというのがないとおっしゃっているのだと思います。全くご尤もです。

そういう意味では、生駒委員も御提案されているように、この参考意見を書く場所を、(3)で全体評価の後に何かうまく付け加えるという観点も必要かと思います。ちょっと頭をひねってみましょう。

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、集計表のほうに入らせていただきます。

最初に、事務方から集計表の見方を御説明いただきまして、評価に入りたいと思います。

では、お願いします。

○村上課長

それでは、個々の小項目についての評価ということでお願いしたいと思います。

資料は、各委員さんの評価の入ったもの、そしてそれを踏まえて委員長評価(案)の評価の入ったもの、それに各委員さんのコメントというもので整理させていただいております。

集計表の一番左は通し番号となっております。一番右は、細分化したことによって若干ずれが出てきておりますので、その小項目の番号となっております。左端の通し番号のところには○印が付された項目があります。これにつきましては、法人の評価と各委員さんの評価が異なっているものですので、特にその辺のところを議論していただければと存じます。この○がついて評価が異なっているものについては、全101項目中41項目でございます。よろしくお願ひしたいと存じます。

○山沢委員長

ありがとうございます。

それでは、101項目ありますから順番に行きたいと思ひます。

小項目1です。見ていただきますと、委員の皆様、それから法人の評価ともaでございます。もちろん、委員会評価もaの方向でいいのではないかと思ひますが、特段意見、あるいはコメントがございましたら御発言をお願いします。これはよろしゅうございますか。

●●委員、●●委員も、aでよろしゅうございますね。それでは、小項目1はaということでございます。

次は2番です。●●委員がsということでございます。私も、sもありかなということsと書いたんですが、委員長評価ということ全体を見て、この時点でsもあるのかということ、括弧で、sもありということにしております。

御意見がございましたら、よろしくお願ひします。数的にはaですが。

○●●委員

昨年もsだったかと思ひますが、ひとえに学長が面接をやってよく話し合ったことは大変な御努力だということで、確か昨年はsとつけているわけです。この間のときに、sのレベルを維持すると次の年はaになってしまうのかという質問をしたんですが、そのお答えがありません。新しいことをやらないとまた落ちてしまうのかということを知りたいんですが、私は昨年とレベルが同じだと思ひるのでsとつけてあります。特に拘ってありませんので、よろしくお願ひいたします。

○山沢委員長

いかがでございましょう。

私はaをつけているのですが、どちらかというこの項目の学長の個人面談というのは非常に重要ですが、ただ、この間のヒアリングの説明ですと、キャリアアップでキャリアセンターができたので、そういう意味では学生のキャリア形成を4年間の中で考えたときに、金田一学長も1年生の面談をちょっと遠慮されて話されたような気がします。

私はそうではなくて、入ってきたときに学長と個人的に自分の将来について話ができるというのは、非常に大きなことではないかなと思います。これをやっている大学はあるかしらということで、前言を翻して私もsにしましたが、皆さんはどうでしょうか。いやいや、キャリアセンターができたから、もう任せていいのではないかということならそれで結構ですが。いかがでしょうか。

○●●委員

今日は法人側が出ていないのですが、法人側の自己評価が、前回sで今回aということであに評価されているんです。昨年と違ってsからaに変えているわけですが、その理由をまず確かめたい。私は大学に合わせたのですが、何か理由があってaにしたのでしょうか。

○●●委員

昨年も大学側はaで、我々がsにしたのではないかな。

○●●委員

いや、sですね。

○山沢委員長

昨年はsです。

○生駒委員

それで、やはり我々も画期的なことだということで評価しました。少人数の編成でやっているからできる話なので。

山浦委員がおっしゃったように、前年と同じようだとやはりsにはならないのだという意識が大学にあったのでしょうかね。

○山浦委員

ちょっとよく分かりません。

○山沢委員長

法人の判断理由を読みます。「学生が4年間の目標を確認し、大学生活に対する意識づけを行うことを目的として、新入生242人全員が学長と1人約5分ずつ個人面談を行った。」全員の面談にキャリアセンターが同席し、多分これは昨年していないですよ。今年ではないかな。

○生駒委員

いや、昨年も同じ文章ですよ。

○山沢委員長

同じ文章ですか。

キャリアに関するアドバイス等を行った。これは、アドバイスを行ったのは学長のほうですよね。また、面談記録を取り、その後のキャリア形成支援に活用したというのは、昨年と同じなんですかね。これは昨年と同じ。では、sではないか。何で昨年と今年が違うのでしょうか。

○村上課長

よろしいですか。

お手元に各委員の質問に対しての法人の回答という資料がございます。その10ページ、山浦委員に対する法人回答というところを御覧いただきたいと思います。業務実績報告書(案)に対する質問、その法人回答が一番右の欄に書いてある資料になります。

そこをそのまま読みますが、「初年度においては、初めての試みということで、体制整備を行い、面談終了後に、面談シートの内容を集計し、キャリア形成支援の方向性を決めるためのデータとして活用したという点からs評価。2年目に入り、初年度のノウハウを活かしての実施ということでa評価としました」。

初年度はノウハウの確立のためにかなり努力をしたけれども、今年度はそのノウハウを活かしてそのままやったからaだという内容かと思います。

○山沢委員長

ありがとうございました。難しいですね。

○山浦委員

やはりレベルが同じなら同じものをつけるか、努力をしていると言うと同じレベルをやっているも下げてしまうのかという、その辺は本当によく分かりません。

○生駒委員

おっしゃるとおり、SDGsですからね。継続することは難しいことですから。

○山沢委員長

学長の努力はすごい。これはsでしょう。いかがでしょうか。

○山浦委員

同じレベルでやっていると落ちていくとなると、多分ほかのものもどんどん落ちていってしまう。

○山沢委員長

それよりも、これはやはり長野県立大学の誇れるものの一つだと思います。私はsをつけたいんですが、皆さんはいかがでしょう。

●●委員、●●委員、いかがでございましょうか。

●●委員、いかがでしょうか。sにするには意見ありますか。

○●●委員

初年度に体制をおつくりになられて、それを継続されているということはとても重要なことで、特徴的なお取組であると思って昨年から拝見しております。

大学側としても、ではその次にさらにプラスアルファの何か取組をしたのかというと、それを踏襲して、昨年度非常に御苦労されたと思うのですが、その中で継続されているということでしたので、私は大学と同じaという評価をさせていただきました。

ですから、それを特に変更すると考えてはおりません。

○山沢委員長

●●委員。

○●●委員

ありがとうございます。

私自身も、大学が昨年度と同じことを実施したことに対しa評価とされているので、a評価ということでよいのではないかと思いました。

例えば、それに対して学生のほうがこういうことを受け止めたとか、それが今後の進路選択に対してこういうインパクトがあったとか、そういう成果が別途示されているとすれば、また変わってくるのかなという印象も持ちました。ひとまず、大学として昨年度と同じことをやって一定の成果を上げたということでa評価としているので、それに倣う形で私もa評価とさせていただいたところです。

○山沢委員長

では、aということで参ります。小項目2は、aということでございます。ありがとうございます。

次は第3項目、総合教育科目の全てにおいてということで、これは全員、法人の評価も含めてaということでございます。コメントもございませんので、aということでよろしゅうございますね。ありがとうございます。

次は4、発信力ゼミでございます。●●委員から何か。

○●●委員

これはaです。

○山沢委員長

これはaですか。ただいま、●●委員からaということだそうです。そういうことでaが大方ですので、aとさせていただきます。よろしゅうございますか。

私としては、新しい試みで高校生を参加させたということでいいかと思いましたが。少しは工夫をしているところが見られたのでsにしたんですが、皆さんはaということで結構だと思えます。aとさせていただきます。

次は5、必修の英語の授業のことでございます。●●委員がbということで、少人数ク

ラスになっていないのではないかとということです。この辺について、●●委員からもし補足の御説明がございましたらお願いします。

○●●委員

ありがとうございます。

これは法人からお話を伺いまして、ある一つの学科については、一クラスが、1学年のクラスと教員配置の関係から31名になったということで御説明をいただいたところです。

それをどのように判断するかという問題になるかと思うのですが、本来英語の授業で25人程度と言っているところが、25人と30人というのとでは、語学の場合は相当違ってくるというように私は印象として持っています。

これについて、少人数ということで判断できるのではないかと先生方はお考えになられるようでしたら、このままaということで進めていただいても構いませんが、私個人としては、b評価のままですということで残させていただければと思います。

○山沢委員長

ありがとうございます。

これは、こども学科が31名ですか。

○内山課長補佐

食健康学科です。

○山沢委員長

食健康学科の31名を二つに分けないで一つにしてしまったということですね。そういう意味では、15人と16人にすると少なすぎるというのか、そうでもないと思うのですが、そういうことでございます。いかがでございましょう。

○生駒委員

私は、その25人程度について、20人から31人というのを程度という範囲で読んだのですが、今の食健康学科というのはここだけですか。全体の一部、一クラスだけということですか。

○内山課長補佐

法人回答が載っている資料の最初の項目に回答がございました。ここには、食健康学科は一クラス31名でそのまま行くと。こども学科については、二クラスに分けて20人と21人で行ったという説明がされております。

○生駒委員

グローバルは何人ですか。

○内山課長補佐

グローバルは20人ぐらいでやっていると思います。本文の評価判断理由のところは20人から31人と書かれていますが。

○生駒委員

ウェイトが分からないから。

○山沢委員長

何かで見たけれども25人ぐらいではなかったかな。ホームページのどこかに載っていたような気がします。

○内山課長補佐

グローバルは7クラスです。

○山沢委員長

7クラスですか。

○村上課長

全部で何人ですか。

○内山課長補佐

170人です。ですから20人強ですか。

○生駒委員

25人ぐらいになるんですよね。

○内山課長補佐

そうですね。20人から25人。

○生駒委員

割ったらそうなった覚えがある。では、程度に入るのかな。

○山沢委員長

この問題は私が勝手に思っているのですが、後で目標の英語の試験、TOEICのスコアが達成にならないではありませんか。そのとき、どこのクラスがどうなっているのかという、クラス編成の実態とも関わってくるのではないかと思うんです。そういう観点にすると、少人数教育をきちんとやるというのはなかなか重要なことです。確かに31人は多いですね。

○生駒委員

人数を分けなかったということか。

○山沢委員長

分けなかったんですね。

これは今日決めないで、今出た議論というのを、人数をきちんと法人に問い合わせます。独断ですが、この後の英語能力テストとの兼ね合いも聞いてみたいと思います。ここは一応保留ということで進めます。

次は6番です。これは委員全員aということですので、コメントもなしでaということによろしゅうございますね。

次は7番でございます。ここからはグローバルマネジメント学科、学科ごとに分かれていきます。7番については、グローバルマネジメント学科の将来の進路等に関するゼミナールの話です。これは全員aでございますので、aということによろしゅうございますね。

次は4ページの8、食健康学科でございます。これもaということでございます。沼尾委員から、具体的な対応についての情報を出していただきたいということで、この返事は来ていますか。

○内山課長補佐

これにつきましても、質問への法人回答の資料の上から2番目ということで、沼尾委員の御質問に対する答えでございます。

法人側の回答としましては、「履修案内・学生便覧の内容（資格取得のための履修モデル、専門教育科目カリキュラムと取得資格との対応表、教員免許状を得るための履修方法、保育士資格を得るための履修方法）に基づいて、4月のガイダンスで各資格取得のための履修方法について説明しました。また、学生からの個別質問に教員が対応しました」ということになっております。

○山沢委員長

きちんとした返事もいただいております。そういうことで、評価をaということによろしゅうございますね。ありがとうございます。

次は9、食健康学科の2年次のゼミナールになります。全員aということですので、これもaとさせていただきます。

次はこども学科です。これも全員aということです。●●委員から、具体的にどのような対応を図っているかについて記載していただけるとよかったということですが、さっきの回答でよろしいですね。回答をいただいておりますね。これは前の8番と同じでいいですか。

○内山課長補佐

今、小項目の11ですが、この答えが質問に対する法人の回答には入っておりませんので、ちょっとここでの答えはないのですが、私が話を伺っている限り、こども学科の海外プログラムがフィンランドにもありまして、フィンランドの福祉制度や現地の保育実習等

を受けてまいりまして、大変学生は満足して帰ってきたと伺っております。学生のほうでも、帰ってきてから模造紙に成果をまとめたりして、精力的に事後学習もやっております。

○山沢委員長

そういうことで、●●委員、aでよろしゅうございますか。

○●●委員

はい。

○山沢委員長

ありがとうございます。それでは、これは委員全員aですので、aとなります。

次に2年次でございます。評価は皆さんaですが、沼尾委員から実習に参加した学生の満足度をまとめてきちんと整理しておかないといけないということで、この辺は明確な回答がまだないわけです。文章で出してもらわないといけないな。ありますか。

大丈夫だったんでしょうけれども、実習としてはきちんとうまくいっているということで、aの評価でよろしゅうございますね。

次は10でございます。これは全員aということです。山浦委員から、何か問題点はなかったのか、費用、メンタル、事故などということでございます。これは私も聞きたいところですが、回答はありましたか。

○内山課長補佐

法人回答のほうには入っておりません。私が伺っている限りで申し上げますが、グローバル、それから食健康、こども学科とも、海外に昨年6月から9月の間で行ってまいりました。特に大きな事故はなかったと伺っているのですが、ちょっと日頃の生活面で、水が慣れないフィリピン等に行ったときにおなかを下した学生がたくさんいたとか、あるいはヨーロッパのほうで、使っていた寮の中でシャワーの設備がうまくいかなかったとか、そういった生活面では問題はいろいろとあったようです。特段、実習上は問題がなかったと伺っております。

○山沢委員長

ありがとうございます。そういうことで、aということでよろしゅうございますね。ありがとうございます。

次に参ります。11でございます。これは、私を除いて皆さんaということです。

私がsにした理由は、事前学習は、実習ですから行く前は海外プログラムですので楽しくいろいろやっているんだけど、帰ってきてからも結構何回かちゃんと事後学習をしているということで、それを評価したいのでsにしました。特に深い意味はございません。

ほかに、沼尾委員から参加者の満足度はどうか、山浦委員から語学力の不足で困ったことはなかったか、勉強になったことはということだと思っておりますが、そのような質問がございました。これは返事がありましたか。特にないですか。

○内山課長補佐

これも補足させていただきますと、沼尾委員から、参加者の満足度についても情報が必要だと思っておりますといただいておりますが、帰ってきてから学生のほうにアンケート調査を取っておりますので、まとめたものを御提供できると思っております。総じて満足度が高かったと私は伺っております。また、資料等はお出ししたいと思います。

○山沢委員長

ありがとうございます。

そういうことで、私の意見を引っ込めて、aということによろしゅうございますね。では、aとさせていただきます。

次は、海外プログラム参加の事前準備の話です。これは、皆さんの評価はaということですので。山浦委員から、62冊をどう解釈すべきかというコメントがございますが、この点については、何か事務局で情報を持っておりますか。

○内山課長補佐

特段細かい情報は、今、持ち合わせておりません。全体で10万冊ほど図書館にはございますので、62冊というのが少ないと評価するのかよく分かりませんが、必要な冊数をその当時は買ったのだと思っております。十分かと言われたら、ちょっと私も疑問符がつくところもあるかもしれません。また確認はしていければと思っております。

○山沢委員長

一応その利用状況なども、口頭でいいですので聞いておいてください。

○内山課長補佐

了解いたしました。

○山沢委員長

これは、委員全員aという評価ですから、aとしたいと思っております。よろしゅうございますね。

次は、左側の項目番号13、右で言うと15ということになります。CALLシステムでございます。●●委員がbで、結果がついてきていない、週4回で十分なのかという御疑問が出されております。

この点、法人のほうは何か言っていますか。

○内山課長補佐

先日7月6日の法人ヒアリングをされたときも、英語の担当教員から若干説明があったかと存じます。入学者の中の英語能力レベルというのかなり差があるということで、かなり教育には苦勞されているとおっしゃっていたと思っております。現状のカリキュラムでは、週4回やるのが精いっぱいということでございます。

ただ、結果につきましては大学の中でもまた再考等あるとは思いますが、現状ではそん

な状況でございます。

○山沢委員長

ありがとうございます。
いかがでございましょうか。

○山浦委員

英語について言えば、ここを含めて三つ四つ項目があるんですが、一つだけcなんです。

○山沢委員長

最終結果がですね。そうです。

○山浦委員

一つだけcだけれども、これでいいかということです。ほかの四つも絡めてcなんです。それをみんなaだとやっていってaの数を増やそうということではないかと思う。どこかが悪いなら、私はそういうように考えるべきじゃないかということで、bをつけました。

○山沢委員長

事前の質問で、前はこういう準備をしていて、試験は結果がこうだったと2項目で評価をしていました。それが事前準備、教え方とか学生の対応とかそういうので3項目増やして、いずれもその項目は準備のほうはaで、結果だけ悪くてcだと言ってきて、そういう評価になっています。

言葉は悪いですが、教える本人とか教員とかそういう準備はちゃんとしたけれども、学生の実力は今回こうだったというようにしか読めません。それでいいのかという疑問があることはあります。この辺はいろいろあるところですが。

皆さんはこのTOEICの話はいかがでございましょう。この13、15、あるいはCALLシステムの利用ということに限って見てみると、教えるほうも教わるほうもそれなりに努力はしているということで、aということはいかがでしょう。

●●委員、aということはいかがでしょう。

○●●委員

aでいいですが、どこかに「抜本的対策を考えるべきである」と書いてください。こういうものを含めて総合的にやらないと。

○山沢委員長

次の次のページに出てきます。

○●●委員

細かい一つの項目だけ取り出して、結果が出ないのに一生懸命やったからいいじゃない

かと。今や努力ではないんですよ、結果を出すかどうかなんです。努力してやたら汗をかけばいいという世の中ではなくなっている。私に言わせれば生産性向上です。そこが「やった、やった」で、回数をやったからいいではないかというのは、それは心がないと言いますか、まずいと思いますが、aでいいです。

○山沢委員長

ありがとうございます。

では、aとさせていただきます。ありがとうございます。

○沼尾委員

すみません、よろしいですか。今のところは18ですか。

○山沢委員長

左側で13、右側で15です。

○沼尾委員

分かりました。大変失礼しました。

○山沢委員長

よろしいでしょうか。

では、右側の番号で行きます。失礼しました。今のは15でございます。

次は16でございます。3年次以降の学年が英語力をさらに向上させることができるプログラムを作成するというので、全員aということです。aということによろしゅうございますね。ありがとうございます。

次は17、言語教育センターにおいて、図書館とも連携し、管理している外国語学習用教材の充実を図るということでございます。これは、いかがでございましょう。委員は全員aということです。aによろしゅうございますね。それでは、aということでございます。

次は18、大変大きなものでございます。これは、TOEICの2年次修了時までの話でございます。

○●●委員

●●です。

ちょっとミスタッチでaと入力されているのですが、私はbの評価をつけさせていただきました。

○山沢委員長

bですね。ありがとうございます。

○●●委員

理由は、山沢委員長がお書きになられたコメントと同じ理由です。

以上です。

○山沢委員長

はい。ありがとうございます。

●●委員、ここは評価なしでしょうか。

○●●委員

ここは、質問事項についての回答を見てからということですが、点数の分布を見たいと言いました。結果的に未達なんです、それに対する取組と、600点未満の人への底上げの取組と、600点以上の方も700点以上を目指すと言っていますから、どういう分布になっているのかというのを見て、業績評価をしようと思って保留にしています。

○内山課長補佐

●●委員の質問につきましては、ただいま大学に確認中でございます。来週27日あたりを目途に回答したいと思っておりますので、少々お待ちいただけますでしょうか。

○山沢委員長

では、ここは次回に判定させていただくということでよろしゅうございますでしょうか。18は、法人からの追加質問に対する回答待ちということですが。

次は19、英語の授業を効果的に行うためのということですが。私を除いて皆さんaということですが。

なぜ私がbにしたかと言うと、プレースメントテストで、細かいところはどうか分からないんですが、できるものから並べているのか、クラスの平均点が上がるようにしているのか、できるクラスと中くらいのクラスとできないクラスと分けているのか、そういう分け方で教育の効果が違ってくると思います。そういう工夫をされたりしているのか。本当は、中にできるのが2~3人いて、それが面倒を見たりすると15~16人だと上がるんですが、いろいろあるので、そこまで細かくやっていないのではないかとということでbにしました。

あと、山浦委員のところに強烈なのを書いてあります。すみませんがお願いします。

○山浦委員

あまり強烈だとは思っていません。

○山沢委員長

日本語禁止ということですが。

○山浦委員

たまにはそういうのをやってみたらどうだというアイデアです。寮では日本語禁止とやってみたらどうかという、ただアイデアの話です。

○山沢委員長

これはaでよろしゅうございますね。それでは、aとさせていただきます。

次は、ホームページでの大学案内、ホームページの充実ということでございます。昨年より良くなっているということで私もaにしました。皆さんもaということですが、これはaでよろしゅうございますね。ありがとうございます。

次は21、広報の基本的な方針ということです。オープンキャンパスをいろいろやっているんですが、この回答は、まだ来ていませんか。

○生駒委員

この間いただきました。

○内山課長補佐

法人回答シートの8ページ、通し番号18に、伊藤委員への回答ということで書かせていただいております。「高校での説明会は専門科の教員に対する依頼が多く、2018年度は開学年度であったため、専門科目担当教員のうちで高校訪問可能な教員が数多くおり、高校からの依頼に応えることができたという事情があります」、一方、「2019年度は開学2年目を迎え、専門科目担当教員も相当数のコマ数を担当するようになり、高校からの依頼に応えることができないことが増え、回数が減る状況になりました」ということでございます。

「また、教員向け説明会の参加者数が減った理由は、2018年度は開学したばかりのキャンパスを見学したいという開学1年目の好影響により、参加者が多かったと推察しています」という回答でございます。

○山沢委員長

いかがでしょうか。

○●●委員

私はbの評定にしたいと思います。

○山沢委員長

広報活動が前年と比べると大分縮小してしまっているんですね。その点を非常に危惧して、私もbとしました。

伊藤委員も、初年度と比べるとということで、減少の傾向を指摘されております。

今の理由の中に、専門科目の授業が始まってからとありますが、今度4年生も入りますからこれからもっと負担がフルになるわけですから、これは皆さんが前々から御指摘していることでございまして、これからが勝負なんですね。

ということで、もしよろしかったら、厳しくbの評価というわけにはまいりませんかでしょうか。御意見をお願いします。

●●委員、どうですか。

○●●委員

これは、昨年はsだったんですね。それから比べると下がり過ぎだと思って。下がったのはいいんだけど、aぐらいかなという。

○山沢委員長

昨年は周りがみんな興味があったから、黙っていても来てくれていたんですね。

○●●委員

そのレベルはよく分かりませんが、昨年より悪くなったという認識は同じです。

○山沢委員長

ありがとうございます。

●●委員、いかがでしょうか。やはりaでございますか。bでは厳しいですか。

○●●委員

多分二つ考え方があると思うんです。一つは、bにして、ぜひ今後頑張っていたきたいということでメッセージを出すというやり方もあると思うんですけれども、他方で18歳人口の減少に伴って、全国的に大学の志願者数が減少傾向であるということを経験的に考えると、その志願者数の減少というのをどう見るかについては、大学側の気持ちも分かるところがございます。

また、広報の回数とか教員参加のところをどう見るかということと、今の時代、高校生の側からすると、直接対面というよりも、例えば、上手に動画を作ってウェブで学生さんのメッセージを出すとか、いろいろな広報戦略があると思いますので、その辺りのこともうたいながら、次の可能性に期待すると言うときに、aがいいのかbがいいのかというのは悩ましいなと思いつつ、私としては、そこはどちらもありがたと思います。

以上です。

○山沢委員長

ありがとうございます。

●●委員、どうですか。

○●●委員

ありがとうございます。

昨年度に比べ、ホームページとウェブでの情報発信は非常に充実されていると拝見しております。

○山沢委員長

そうですね。

○●●委員

私としては、それに比べて県内向けへの、特に個別の、前回は質問事項でさせていただきましたが、生徒さんが県立大学を意識し、行きたいと思うような動機づけになるような関わりというのは、各高校の先生方といかに接触頻度を高めていただくかということなので、全体的な広報体制やホームページについては、積極的な、そして具体的なお取組みをされたという部分と、県内においては、さらに御努力をお願いできればという形でaという評価を入れさせていただきました。

○山沢委員長

将来を見てということですね。優しいですね。やはりそう見ないといけないですね。

●●委員。

○●●委員

私は、県立大学であるということに重きをおいてaにしました。要するに、県内の志願者が減ったというのはどういうことなんだと。これは、今、御指摘があったような点があったのではないかと、おごりがあったのではないかと、そんなことは言ってはいけません、減ったということに対してですね。

これは学力に県内の高校がついていられなかったという説明を伺いましたが、それは入試の結果であって公平であるべきですが、志願者が減るといのは人気がないという話で、そういうことでは本来の役割を果たしていないのではないかと思います。

○山沢委員長

難しいですね。すみません、これは保留とさせていただきます。

次は22でございます。これは全員aということでございますので、aでよろしいかと思えます。

次は23、日本留学試験等々のことでございます。皆さんaということでございますので、aということにさせていただきます。

次は24、編入学です。編入学の実施学科、募集人員等々で話を進めるということでございます。これは皆さんaということでございますので、aでよろしゅうございますね。

次は25、単位互換でございます。沼尾委員から、スケジュール決定のことで、対象大学の選定や科目の選定の目途は立っているのかが分からないということでございます。山浦委員も、今年度に行えるかどうかということですが、この辺の法人の回答はありましたか。

○内山課長補佐

25の単位互換の関係ですね。回答シートには入っていませんので、後日回答を差し上げたいと思います。単位互換につきましては、学内で対象科目等について検討しまして、3月の教務委員会で検討スケジュールは決定したということですが、まだ具体的には進んでいないような状況でございます。

○山沢委員長

沼尾委員、御意見をお願いします。

○沼尾委員

確かに検討スケジュールを決定するというのを一步前進という見方もできますが、今後の見通しも含めて、それが全体のプロセスとして着実に進捗していると評価していいかどうか、そのところの判断が難しいと思ってこのように評価しております。

ただ、その見通しが立つということであればaでいいかと思うのですが、判断が難しいという印象を持っています。

○山沢委員長

単位互換については、まず学内で学科の転科の考えで何か話を進めているようなイメージではなかったでしたか。グローバルマネジメントから専門系の二つの学科に入るのはほとんど無理ですが、逆はできるというイメージのことを話していたような気がしますが。

○師岡担当係長

教務課長のほうで、個人的には可能と思うということで、学内で決定しているというお話には、まだなっていないです。

学外のほうを今秋までに方針を固めて、来年度の入試に備えたいというお答えでした。

○山沢委員長

ありがとうございます。

○生駒委員

中期計画によると、単位互換は、平成33年度(令和3年度)までに実施の方向で他大学との協議等を進めると書いてあります。この中期計画を年度計画の前につけてほしいんです。私たちは中期計画の進捗状況を見ているので、これだと年度計画しか載っていないから。前は横に入っていたんです。これを事務局につけてくださるようお願いしたいと思います。

そうすると、33年度ということですから、今の段階でどこまで進めるべきかという判断になると思います。

○山沢委員長

単位互換は33年度までに実施の方向でと。

○生駒委員

いやに長いです。

○山沢委員長

平成33年度というと令和3年、来年度までということですか。

○生駒委員

ということは、かなり進んでいないといけない。

○山沢委員長

来年実施なら、今年もう決まっていないと駄目ですね。ちょっと遅れているんでしょうか。

○生駒委員

令和3年までにということですね。

○山沢委員長

学内だけならどうにでもなるでしょうから、学内なんでしょうね。

○生駒委員

今2年度ですから、来年度ですね。

○山沢委員長

ぎりぎりで間に合うと思います。スケジュール的にいいんでしょうね。

●●委員のb評価は置いておいて、私が今何をしゃべろうかとしているかということ、評価委員会としてはaにするけれども、コメントとしては、スケジュールがぎりぎりだと、実際に単位互換を申し出たりいろいろと考える場合、転科も含めた単位互換を考えた場合には、もう時間がほとんどないのではないかと、きちんと急いでやってほしいということを書くという手もあることはあるということですが、いかがでしょうか。

aという評価で、●●委員いかがですか。ただしコメントに、時間がそんなにないと、転学科ということのを頭に置いた単位互換などはかなり難しいと。いわんや、他大学からのことはもう無理だろうということも含めて、きちんと早急に進めていただくというようなコメントをつけてのaということで、よろしゅうございますか。ありがとうございます。では、コメントをつけてaということです。

次は26、bが多うございます。GPA制度ですね。●●委員は回答待ちで、b評価とした判断理由と課題が示されたいということでございます。

私としては、GPA制度の導入を機に、教学マネジメント検討ワーキンググループを立ち上げて、成績評価の厳密化を通して教育力の向上を図るという仕組みづくりを考えていることは評価するのですが、基本的にGPA制度というのは、学長もちょっとおっしゃっていましたが、教学マネジメント、成績の管理ということ、厳正な評価ということについては物凄く効果的ですが、それで教育力が上がるかとか、そちらはまた別の問題になるのではないかとということでbとつけたわけでございます。

○内山課長補佐

よろしいでしょうか。先ほどの法人回答シートの12ページ、通し番号27の回答でございます。山浦委員の質問に対する回答ですが、「GPA制度による成績評価を、積極的に授

業内容・方法の改善につなげることができていないためです。今後、教学マネジメント検討ワーキンググループでの議論を経て、具体的な取組に反映していきたいと考えています。本学のGPAの活用は、①教育の質保証、②学修成果の可視化、③モチベーションの向上、④国際化の推進の4つ。このうち3つは実施をしています。例えば、GPA最上位者の表彰制度や学びが足りない者の指導、加えて海外留学についてもGPAを活用しています。今後GPAの更なる活用を学内で検討したいと考えています」ということとさせていただきます。

○山沢委員長

ありがとうございます。

●●委員、ここは。

○●●委員

私は、変更する場合は自分に意見がある場合で、大学評価を尊重するという建前を取っていますので、bで。

○山沢委員長

bですね。ありがとうございます。

●●委員、やはりaという評価でございますが、この点は評価できるというところを、是非お願いします。

○●●委員

ありがとうございます。

いただきました資料の中でも、例えば、実際に学長表彰の基準として用いているのは初年度から取り組み始めていらっしゃるようですが、実際にそれを評価として取り組んでいくためのスケジュール、毎年度行うと目標値には書いてありますが、初年度からこれを全て取り組むというのはなかなか難しいことだと思って拝見しておりました。

2年度は、その中でガイドラインの策定や2学期からの運用開始、そしてその結果を教員間で共有、3月には教学マネジメント検討ワーキンググループの立ち上げ、そして学長表彰というように、それをどのように運用するかというところについては、まず全学的な取組は昨年度の中で行われたのではないかと、その情報から解釈しました。

今後、全学の次の各学部・学科における検証や、授業内容等への改善というのはその次の年度の課題かと思いましたので、開学2年目におけるGPAの活用を、まず全学的に進めているという中では、私はaかと感じました。

○山沢委員長

ありがとうございます。

ただいまの●●委員の御意見はごもっともだと思います。2年次の昨年度の実施状況を見ていると、学長表彰、留学への対応等々、GPA制度は十分機能していると、そういうシステムづくりができつつある、できていると。

しかし、問題点としては、更にそれを授業改善へ活用する等についてはまだまだだとい

う点であるけれども、2年目としては仕組みづくりができたのではないかとということでaとしたということでございます。

その辺はいかがでございますでしょうか。これは●●委員への提案ですが、そういう思いも含めて山沢のコメントのところを読んでもらいますと、さらに授業改善への今後の活用等について、これからは是非努力してほしいというコメントも入れて、bということで評価をいただけるわけにはまいりませんかでしょうか。

今実施しているGPA制度のいい点、プラスの点を書いてそこは評価すると。しかしながら、さらに今後は授業改善等へきちんとつなげていってほしいというコメントをつけた形でb評価ということに、●●委員、御賛同いただけませんかでしょうか。

○●●委員
結構です。

○山沢委員長
ありがとうございます。

では、今のコメントをつけるということで、bとさせていただきます。

次は27、予習・学習等についてシラバスにどう書いてあるかということでございます。これは委員全員aということでございますので、aとさせていただきます。コメントはきちんと是非入れたいと思います。よろしくお願ひします。コメントをつけるということで、ただaにしたのではないということです。

それから28、授業にディスカッション、ディベート等で授業理解の深化を図るということです。委員全員aということで、これもaとしたいと思います。

次は29、大学院についてです。大学院の基本構想を決定したということはおっしゃったのですが、基本構想がどういうものなのかよく分かりません。一生懸命考えているのは間違いないようなので、私はaとさせていただきます。

本当はこれも急がないと、もう3年ですからね。今年3年で、就職は3年の最後ぐらいから始まりますから、大学院があるかないか、どういうふうに行っているのか学生に早く知らせないといけないのですが、遅れているのでしょうか。

○生駒委員
中期計画には、2020年度中に県に提案すると。

○山沢委員長
そうですね。2020年度でしょう。

○生駒委員
今年度です。

○山沢委員長
そうすると、もう就職活動がもう始まってしまいますね。ぎりぎりで大丈夫でしょうか。

余計な話ですが。

皆さんaということで、aでよろしゅうございますね。

次は30、FD研修です。参加率が去年は悪かったのですが、62%から一応100%にしたということでございますので、評価したいということで、私はaとしました。皆さんもaということでございますので、これはよろしゅうございますね。aでございます。

次は31、授業改善アンケートです。これは、●●委員、●●委員がbでございます。●●委員のコメントとしては、授業改善アンケートの報告書を見せてもらいたい。●●委員は、授業改善アンケートについては、結果を踏まえてどのような魅力化を図るかというプロセスを考えることが大切かと思うが、そういうことが分からないということでございます。

これは意見がありましたか。

○師岡担当係長

すみません、こちらの件も27日までということで照会中です。

○山沢委員長

そうですか。これは27日の回答を待ってからの評価ということでよろしゅうございますね。

○生駒委員

前に戻って29ですが、これはaでいいんですが、中期計画は、2020年度中に具体的な計画を検討し県に提案するとなっているんですね。なので、この基本構想というのが具体的な計画に相当するのかどうか、それを確認するコメントが必要ではないかと思います。

○山沢委員長

では、それを聞いてください。一応aとはしておきますが、今の質問の法人対応に関する委員会の意見をコメントに入れたいので、どうかと聞いてください。

本当にこれは急いでやらないと、学生がかわいそうだと思います。来年に入ってからやるのだとのんびりしているのではないかと思うんですね。それでは学生が大学院へ行かれないのではないかと。きちんと聞いてみてください。中期計画の関連もあるのでお願いします。

次は32、教員相互の授業参加でございます。皆さんaということでございますので、aでよろしゅうございますか。

私がぐずぐず言っているのは、教員の相互授業参観は今の流行りで、どこの大学もやっています。沼尾委員、大学では結構積極的にやっていますね、お互いに見合おうということで。これは、やっているように見えるけれども発信力ゼミだけなんですね。それは駄目で、普通の授業もお互いに見て、信州大学の場合は、教員同士でこの授業はいいということで、学部長が表彰しているんですね。そのぐらい、やっぱり教員で見られると仲間に見られますので一生懸命やるんですね。

○生駒委員

その質問は私のところに来ていまして、発信力ゼミの取組が紹介されていますが、他の授業においても同様な取組が組織的に実施されていますかと。回答は、「他の授業においても同様の取組は、現時点では組織的には実施されていません」というものです。

なので、山沢委員長の先程読んだものと一緒に入れていただければ。

○山沢委員長

生駒委員のコメントも入れて、それでaということで、ありがとうございます。

次は33、全寮制の成果を高めるために象山寮でいろいろと面倒を見るという話です。大変よくやっているということで、全員aということで、これも委員会としてaということでよろしゅうございますね。

次は34、象山寮でやっている「象山未来塾」という取組で、寮生のキャリアアップ、具体的にキャリアを考えるような試みということです。私を除いて皆さんaなので、これはaでよろしいかと思えます。aでよろしゅうございますね。

次は35、寮の運営方法です。自立的な生活ルールを定めるためユニットリーダー会議をする。寮生をコントロールするというのは非常に大変なことで、且つ大切なことですが、これをうまくやっているということでございます。皆さんaということで、私もaで、全然頑張りませんので、35もaということでございます。

次が36、その象山寮で、レジデント・アシスタントというアドバイザーみたいなものをつくって、先輩方にいろいろ面倒を見てもらうということです。私を除いて皆さんaなので、aとします。ありがとうございます。実際のところ、50～60年伝統のある学生寮というのはなかなかこうは行かないのですが、うまくやっているということで、つい甘くなつてしまいました。

次は37、学生の地域との連携・交流につながる取組をソーシャル・イノベーション創出センターやキャリアセンターにおいて推進するということです。●●委員はs、あとはaでございます。

●●委員、これは特に理由がありますか。

○●●委員

大学側の判断理由を好ましいということで認めました。私がaにすれば収まりがつかますか。

○山沢委員長

それだと非常に評価しやすいという、ただそれだけです。

○●●委員

皆さんいろいろ書かれていますね。

○山沢委員長

そうですね。私の場合は、ソーシャル・イノベーション創出センター(CSI)を、地域連携活動としては十分に成果を挙げていることは評価するのですが、これは学生の地域との

連携・交流に関するもので、現段階では、学生は行事に参加のみと見受けられるわけでございます。2020年度以降は、学生の専門性が高まる、大学として専門の学生が大勢出てまいりますから、そういう学生の専門性を生かしたような活動、卒業研究などのところでの能力、力というのを地域連携活動につなげていってほしいという意味でございます。

要するに、まだCSI、センターが企画して職員主導で地域貢献をやって、そこへただ学生が参加しているだけです。それでは駄目で、学生が主体的にこういうことをやりたいということで、そういうものを早く引っ張り出さないと、まだSまでではないということで、私はaとさせていただきます。

○●●委員

私は皆さんのコメントを拝見して、aに訂正させていただきます。

○山沢委員長

すみません。ではaということで、ありがとうございます。

沼尾委員から、参加者の満足度も含めた評価ということで、本当にそうですね。どうしても大学がやると自己満足に陥ってしまうので、この評価をきちんと取ることは非常に大切で、これもコメントの中に必ず書きたいと思っています。

○生駒委員

私のコメントの方々に出てくるのですが、定量化の提案をしています。要は、人数とか開催頻度とか参加者とか、研究のほうにもいろいろありますけれども、定量化をできるだけ図りなさいというのが一つです。それは分かりやすいと。それだけで評価するわけではないけれども、他大学が取り入れているような定量的数値、これは、指標を10項目ぐらい中期計画に入れていきますね。これは少ないです。

ここにたくさん書いているのですが、計画を変えるわけにはいかないのでしょうかけれども、努力目標というか、達成目標を年度計画として入れ込んで、年度計画が難しければ、大学の運営管理として努力目標をぜひ定めていただいて、その達成状況を見せていただくとか、モチベーションを各教員なり考えながら、職員も含めてですが、達成目標を決めるということをお願いしたいというのが私の提案です。

私の紙に参考例が入れてありますけれども、今日お配りさせていただいた中で、これだけのことがあります。経営判断指標は別途ありますが、地域目標指標として、教育・研究・地域貢献・国際化・業務・財務・学生支援・安全管理と分けてありますが、他大学でこのようなことを、定量指数として目標管理で中期計画に入れているんですね。

是非、努力目標という形で提案させていただきたい。大学として努力目標として、この期は目標値が既に定まっていますので、それ以外の双方向授業5点満点で判断するとか、志願倍率で判断するとか、授業安定度、学生の満足度を入れるとか、大学ランキングを考慮するとか、ICT環境満足度を取り入れるとか、研究であれば、補助金の申請、科研費では教員1人当たりの採択件数、論文数、論文引用件数とか、著書発表件数とか、こういう目標を定めて努力すると。

是非、他大学でも取り入れているこういう定量指数を努力目標として活用してもらいた

いと、そういう意味でここに添付しました。

○山沢委員長

ありがとうございます。コメントにそのようなことも付け加えたいと思います。

次は38、就学困難な学生の支援ということでございます。これはみんなaでございます。aということでよろしゅうございますね。

次は39、学生の健康診断の受診率100%を目指す、学生サポートセンターで健康、メンタル、学修等の相談をきちんとするということです。いろいろ御意見がありますが、●●委員からbという判定をいただいています。この理由を一つお願いできますでしょうか。

○●●委員

受診率98.6%は低いとは言えないと思うんですけども、やはり今、このときは別にコロナの話ではないですが、学生さんの健康管理はとても重要だと思っているので、目標は100%を目指すと言われておりますので、やはり100%を目指していただきたいと思っております。総合評価はaでも結構ですが、私の評価はbとさせていただきます。

特に、この間、退学のお話も伺いましたし、相談者、カウンセラー増加のお話も聞いております。学生への様々な観点からのケアというのが重要になると思いますので、入り口としての健康管理、それは生活習慣の管理にもなると思うのですが、せっかく寮など様々な制度があるにもかかわらず、なぜ100%にならないかというところは残念な点だと思いますので、b評価のまま、総合はaで結構です。

○山沢委員長

ありがとうございます。

委員会としてはaの評価だけれども、コメントの中に、今おっしゃられたような、学生の健康は大学には非常に重要なことであり、100%を目指すと言ったからには100%にしてほしいと、その努力をすべきだと。基本的に学生の種々の健康、メンタル、学修等の相談というのは、そもそも健康診断から始まるということで、そういう観点からも、学生の健康診断受診率というのを、100%きちんと実施する手だてをしてほしいというようなコメントをつけるということでよろしゅうございますか。

○●●委員

ありがとうございます。お願いいたします。

○山沢委員長

次は40、大学の食堂を良くするという話です。これは皆さんの評価がaでございますので、aということでよろしゅうございますね。ありがとうございます。

次は41、キャリア支援でございます。aの評価が2人、私と●●委員ということで、私の理由はそこに書いてあるのですが、インターンシップガイダンスに200名の学生参加がありますけれども、実際に、ガイダンスは200名で全員に近いわけですが、インターンシップ参加者は74名で半分以下ということです。全学生400人でやっているのだと思いま

すが、全学だと15%ぐらいの参加で多くないのではないか、もうちょっとインターンシップ参加者の増加を考えていただきたいということで、私はaにしました。

●●委員、aの理由は。

○●●委員

こちらでは、キャリア形成のキャリア支援を学長面談と発信力ゼミと年度の目標で掲げていらっしゃると思います。今キャリアセンターでも様々なお取組があると思うんですけども、今回の学校からの評価の中でも、学長面談と発信力ゼミの後にインターンシップとかあって、それぞれの役割というものが、キャリア形成に向けて、例えば学長面談とか発信力ゼミだとか、キャリアセンターとか、インターンシップというような、学生のキャリア形成に必要なチャンスをいろいろな場面で入れていますと書かれているように思うんですが、その関係性がよく分からない。

それぞれでいろいろな情報発信をしているのかもしれないのですが、それが本当に、実際に今お話にありましたようなインターンシップの参加者といったような学生の動きとか意識づけに効果があるのかというところが、ちょっとこちらの情報からは見えなかったので、優れた取組と評価できるかといいますと、全体の整合性そのものもまだ整理できていないかというところで、おおむね計画どおりの評価とさせていただきました。

○山沢委員長

ありがとうございます。

●●委員、これはsですが、よくやっているということですか。

○●●委員

特に問題がないのではないかと理解したのですが、この評価どおりということでありませぬ。

○山沢委員長

難しいですね。すみませんが、今回は保留として、法人に問い合わせしてほしいのですが、具体的にインターンシップガイダンスをやる参加者、これは学科によって大分違うのではないかと思います、どういうことになっているのか。インターンシップ先は出てきました、その辺を知りたいということ。

それから、もし学生に、インターンシップに関してアンケートを実施しているのだったら、それを見せていただきたい。

それから、学生のインパクトが足りないというか、説明が十分でないのではないかといいことですが、ガイダンスだけ聞いて参加しないという、その辺も大学側としてはどのように解釈しているのかを問い合わせただけですか。それから次回評価したいと思います。

時間に気づかずやっていて、もう25分超過してしまして申し訳ございません。今日は41まで行きましたので、次回はこの続きをやりたいと思います。30日によろしく願います。不手際で本当に申し訳ありません。

4 その他

○山沢委員長

7月30日ですが、いろいろ予定がございます。ウェブでの参加をどうするかという話があるのですが、事務局から簡単に御説明をいたします。

○村上課長

長時間にわたりありがとうございます。

まだ積み残しがありますけれども、今回は既に御予定を取らせていただいておりますので、7月30日木曜日、時間はまだ調整中ですが、この県庁で開催することで考えておりますのでお願いいたします。

会場にお越しになれない方は次回もウェブ参加ということで、会場にいらっしゃれる方については会場で、今日みたいな方式でよろしいでしょうか。

○山沢委員長

ハイブリッドにするということですね。よろしゅうございますか。

○生駒委員

私もハイブリッドにしようかと思ったのですが、やはりこうやって対面のほうがスムーズに進むように感じますので、出てきます。

○山沢委員長

以上でございます。今回はきちんと終わらさなければいけないわけですから、よろしくお願いいたします。

5 閉 会

○新井企画幹

山沢委員長、ありがとうございました。

最後の高等教育振興課長の村上からの御挨拶は省略させていただきます。

本日は、大変長時間にわたり御審議ありがとうございました。次回、続きをまたお願いいたします。

以上をもちまして、評価委員会を終了いたします。ありがとうございました。

○一同

ありがとうございました。

(了)